

✠016 エルサレム会議 (英語: Council of Jerusalem)

AD48 (頃) に、エルサレムで開催された初代教会の会議のことである。これについては、使徒言行録 15 章 (使徒会議の決議) に記されている。

パウロの第 1 次伝道旅行によって誕生したクリスチャンたちと、ユダヤ人クリスチャンとの間の問題について初めて公式な見解を与えた会議である。

ユダヤ主義的クリスチャンの主張に対して、アンテオケ教会代表のパウロとバルナバを迎えて、エルサレム教会 (イエス・キリストの死後、エルサレムで活動した弟子たちの教団) で会議が開催された。最初に、パウロの宣教報告があり、続いて問題解決のために激しい論争があり、審議がなされた。

その結果、律法を守ることから異邦人を解放 (異邦人は割礼を受けたり、ユダヤ教の律法に従う必要はない) して、信仰によってのみ救われることが確認された。さらに、偶像に供えた物、血と絞め殺した物、不品行を避けるようにという申し合わせ事項を異邦人に書き送った。

しかし、これで論争が終わったわけではなく、70 年のエルサレム陥落まで、ユダヤ人クリスチャンと異邦人クリスチャンとの対立は継続した。エルサレム陥落後はユダヤ人クリスチャンは衰退していった。

※エルサレム会議は、福音の真理を守るための最初の公的な戦いであった。人が神の前に義とされ救われるのは、人間の努力や功績によるのではなく、十字架で罪の贖いを成し遂げて下さったキリスト・イエスを信じる信仰による—この偉大な福音の真理が確立されるための大切な戦いだった。

